

シンガポール国際水週間 (SIWW2009) への参加

研究第一部

研究員

小代 竜司



85カ国・地域から1万人以上が参加

2009年6月22日から26日の5日間にわたりシンガポールにおいて、「第2回シンガポール国際水週間(SIWW2009)」が開催されました。SIWW2009は昨年からは1回開催されているアジア最大の国際的な水のイベントで、今回は「持続可能な都市：水のためのインフラ技術」をテーマに国際会議と展示会が行われ、85カ国・地域から1万名以上の水関係者が参加しました。下水道グローバルセンター(GCUS)は、国土交通省下水道部、国土技術政策総合研究所、土木研究所、下水道新技術推進機構、日本下水道協会、下水道業務管理センター、東京都下水道サービスおよび共同で展示ブースを運営するクボタ、極東技工コンサルタント、三菱化工機による調査団を結成し、情報収集・発信を行いました。下水道機構では、現地視察や現地関係者との会談等を行うなど、シンガポール政府の水ビジネスへの取り組み等についての情報収集、動向調査を実施しました。



シンガポールの水事情

シンガポールは、国土が狭小で山地が無く、国内での水供給能力が不足しているため、水供給源確保を目



マレーシアからの送水管
(対岸はマレーシア・ジョホールバル)

的として、①貯水池、②マレーシアからの輸入水、③NEWater(新生水)、④海水淡水化を「四つの蛇口」と銘打ち、国策として研究開発(R&D)や施設の建設が行われています。特に近年では技術革新、コスト縮減により③NEWaterによる自給率が高くなっています。



シンガポール政府の水ビジネスへの取り組み

シンガポールは、「四つの蛇口」政策を通じて培ってきた科学技術とエンジニアリング能力を利用して、2015年を目途にグローバル・ハイドロ・ハブ(シンガポールに拠点を置く国内および海外企業が集結し、世界市場向けの革新的な水処理技術およびソリューションを開発する総合的システムの中心的役割)への転身を目指しており、今後10年の間に、技術と製品の提供で世界水市場の3%獲得を目標にしています。その目標達成のために、PUB(水資源を管理する政府系機関)およびEDB(経済発展の戦略立案・実行を主導する政府機関)の主導によって、さらに多くの企業誘致を目指しています。また、国内の環境系企業の成長を促し、多くの企業や研究所による環境・水の最新テクノロジー開発を支援して、その能力を中東、中国をはじめとする成長市場に積極的に輸出することを計画しています。



NEWaterビジターセンター
(ベドック地区)